

令和4年度宇部市公共交通協議会 第1回会議 会議録

日 時：令和4年（2022年）4月15日（金） 14：00～14：50

場 所：宇部市役所 3階 総合政策部会議室、Web

出席者：19名（欠席者1名）

榊原会長（国立大学法人山口大学大学院）

三戸副会長（宇部市自治会連合会）

鈴木委員（国立大学法人山口大学大学院）

大谷委員（宇部市交通局）

綿部委員（船木鉄道株式会社）

高村委員（サンデン交通株式会社）

糺委員（宇部地区タクシー協会）

中村委員（西日本旅客鉄道株式会社）

山田委員（中国運輸局山口運輸支局）

中尾委員（中国地方整備局山口河川国道事務所宇部国道維持出張所）

保村委員（山口県宇部土木建築事務所）

大下委員（山口県宇部警察署）

野村代理委員（山口県観光スポーツ文化庁交通政策課 渡邊委員代理）

吉原委員（一般社団法人宇部観光コンベンション協会）

木原委員（宇部市地球温暖化対策ネットワーク）

森山委員（公共交通利用者）

山根委員（宇部市交通局バスモニター）

萩原委員（山口大学大学院創成科学研究科）

村上委員（宇部市都市政策部）

事務局：5名

都市計画課 金子課長、羽根主幹、青木副課長、和田係長、金子主任

次 第：1 会長あいさつ

2 議事

（1）宇部市公共交通協議会設置要綱の一部改正について

（2）副会長の選任

（3）令和4年度事業計画及び予算（案）

（4）「スマート空港タクシー」に係る協議事項について

3 その他

1 会長あいさつ

2 議事

(1) 宇部市公共交通協議会設置要綱の一部改正について

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

都市政策部関連の記述に関しては、市の機構改革によるものだが、第1条に書かれている内容は比較的大きな変更であると思う。

私の理解では、具体的にこれでこの協議会にどのような議題が入ってくるかと言うと、先ほど説明のあった確保維持改善事業に該当する、個別の路線のネットワーク計画と、その計画の年度ごとの実績の評価というものが入ってくるという理解である。

計画については、おそらく夏前、6月くらいのタイミングで10月からの計画を作成する必要があって、逆に今年の9月で今の計画が終わって、その実績評価をおそらく年内くらいで行うこととなるのが標準的なスケジュールじゃないかと思う。

この要綱の改正で、今まで別のところで行っていたこれらのことを、この協議会で行うこととなるということでもいいか。

【事務局】

会長が言われたとおりで間違いはないが、実績評価については、年が明けてすぐくらいに行うこととなる予定。

(2) 副会長の選任

事務局の推薦により、副会長は三戸委員とすることを決定した。

(3) 令和4年度事業計画及び予算（案） [承認]

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

情報発信は必要なことである。具体的にどのようなことを実施するのかは、まだ固まっていないと聞いているが、実施に当たっては、いろいろな方の意見を聴くなど、効果のある事業としていただきたい。

(4) 「スマート空港タクシー」に係る協議事項について [承認]

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

時間帯によって料金を変えることが、効果というか意味が有ったか山口市から聞いているか。

【委員】

昨日、山口市役所、いさむや第一交通、大隅タクシー、湯田都タクシーが来られた時

に、なぜ値上げするのか根拠を聞いた。

今は、山口市の補助金によって成り立っているが、補助金なしでも運営できるように値上げをするとおっしゃっていた。

また、時間帯によって値上げ額が違う理由は、アンケートを取られ、その結果を基に、値上げ幅を決めたとおっしゃっていた。

【事務局】

時間帯によって料金を変えることに、効果や意味があったかの資料は持ち合わせていないが、山口市からいただいた資料では、令和3年の3月から令和4年の2月までの1年間の実績は、479人の方が利用している。

4,000円で利用された方は、179人、3,500円で利用された方も179人、3,000円で利用された方は121人となっており、空港発・湯田着、湯田発・空港着は大体半々の利用となっている。

アンケートによると、ビジネスの利用が49%で、居住地では東京からの利用が約半数となっている。

【委員】

空港からタクシーに乗って湯田まで行った場合の片道料金はいくらくらいかかるのか。

【委員】

15,000円くらいはかかると思う。

【委員】

そうすると、3人くらいは乗らないともとは取れないということか。

【委員】

そのとおり。1乗車あたり1.7か1.8人とおっしゃっていたと思う。それを増やすために、頑張っていくとおっしゃっていた。

【委員】

ということは、山口市が半分くらいは負担しているということか。

【委員】

補助金の中身は分からないが、そのようなことをおっしゃっていた。補助金が今後も続くとも思えないので、この事業を続けることができるよう、値上げをすると聞いている。

【委員】

交通局としても、自主路線でやっているのだから、どちらも利用していただくと有難い。

3 その他

【事務局】

次回の協議会開催予定、委員報酬の変更について説明。

【副会長】

JR西日本から赤字路線の情報が開示され、これから大変なことになるのではと思っている。

【委員】

今週月曜日に収支の情報開示ということで、発表させていただいた。今回発表した趣旨は、ローカル線という線区においては、これまでも、人口減少であるとか、道路整備の進展などもあって、JR発足以降利用は減少傾向であり、弊社としては、新幹線であるとか、京阪神の在来線の収益で内部補填という形で運営してきたものの、昨今、2年前からのコロナの影響により、内部補填では太刀打ちできなくなった。

今回、輸送密度2,000人以下の線区について、収支率とか営業係数を発表しているが、いろんな論調では、廃止だとか、転換だとか言われているが、今後、地域の皆様と、具体的に話を進める一つの物差しとして今回発表している。

鉄道は大量輸送が大きな使命であるが、大量輸送の観点からすれば、皆様のご期待にお応えできていないのではないかとこのところもある。

そういうところも含めて、地元の皆様としっかり話し合いをしながら、進めていく上でのツールといたしまして、この度発表させていただいた。

宇部線につきましても、引き続き公共交通協議会を含めて、利用促進という観点でご協力をいただきたいと思いますし、我々もしっかり、お応えして行きたいと思っている。

【会長】

今回、宇部市の関係で出ているのは、小野田線だけだが、小野田線が赤字には違いないであろうということは、皆さん思っていたわけで、ただ、どの程度なのかは数字を出されていなかったの、見えなかったところがあった。今回、数字を出していただいたということは、第一歩として大事なことではないかと思う。

今回の発表は、2019年度の輸送密度が2,000人未満の線区が対象となっており、これは、コロナ前の数字である。宇部線がどうかというと、今回免れているが、数字的にはそんなにいい状況ではない。そういった状況を皆で共有するという事は大事なことである。

これからどうするかというところで、今回策定した、地域公共交通計画で鉄道のことでも書いてある。ここに書いてあることが生きるような形にしていく必要がある。利用促進なども含めて、今までもやってきているかと思うが、引き続きお願いしたい。

また、鉄道は複数の市町を跨って運行しているため、県の役割も大きいのではないかと考えている。

小野田線で言えば、今、どのような方が必要としているのか、どのようなニーズがあるのかを把握し、それをどのように確保していくのか考えないといけない。

【委員】

宇部線の利用状況だが、2018年度は、約2,539という輸送密度であった。山陽本線の新山口・下関間は、2018年度8,337であった。

いずれも、JR西日本のホームページに公開しているので、皆様に見ていただき、関心を持っていただきたい。

【会長】

昨日、ウオーカブルの会議に参加した。常盤通りの道路空間の活用の仕方ということで議論されているが、駐車場がないと人が来ないとおっしゃっていた方もいた。車は否定できないが、地域公共交通計画にウオーカブルなまちづくりとの連携も記載されていることから、ウオーカブルの話と公共交通を上手くつなげて行ければと思う。